

平成23年度 置戸町決算

平成23年度一般会計および各特別会計の決算認定について、9月に行われた町議会定例会において提案しましたので、その概要をお知らせします。また、6ページでは、平成23年度決算に基づく健全化判断比率等について公表します。

一般会計の決算概要

決算は、町に入ってきたお金（歳入）と、町が使ったお金（歳出）を分かりやすくまとめたものです。まちづくりを進めるうえで、どのような事業にどれくらいのお金が使われたのか、決算を見ると明らかになります。

一般会計の決算状況は、円グラフに示すとおりです。歳入が40億1,467万円（前年度対比5.8%減）、歳出が39億2,984万円（前年度対比5.5%減）で、差引額は8,483万円となりました。

歳入は、その財源の性格から、「自主財源」と「依存財源」に分けられます。円グラフで見ると、

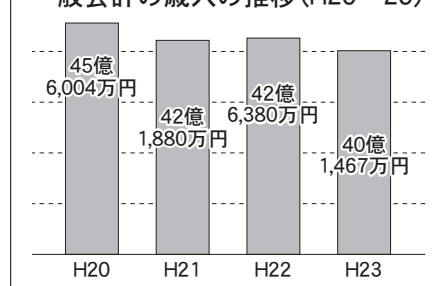
町税の内訳 ※（ ）内は構成比

■ 町民税	1億4,763万円(46.7%)
■ 固定資産税	1億3,940万円(44.1%)
■ 軽自動車税	659万円(2.1%)
■ 町たばこ税	1,840万円(5.8%)
■ 入湯税	408万円(1.3%)

道支出金 1億1,134万円(2.8%)

国庫支出金 2億213万円(5.0%)

一般会計の歳入の推移(H20~23)



置戸町の自主財源は歳入全体の18.5%、依存財源は81.5%の割合となっており、私たちの町の最も大きな財源は依存財源である地方交付税で、歳入全体の61.2%となっています。

一方、歳出総額は39億2,984万円で、その内訳を見てみると、福祉全般に関わる経費である民生費が7億5,790万円と最も多く、給与費が6億3,629万円、総務費6億3,431万円と続いています。

健全な財政運営には、歳入と歳出の均衡を維持しながら、経済情勢や町民の皆さんの要望に対応できるだけの弾力性がが必要です。置戸町を取り巻く台所事情は年々厳しさを増していますが、今後も限りある財源を有効活用しながら、町民の皆さんにとって満足のいくサービスを提供できるよう、効果的な財政運営に努めていきます。

